

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成26年1月～3月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成26年4月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 26 年 1 月～3 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、利府松島、加美、遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業

2. 調査対象期間

平成 26 年 1 月～3 月期を対象として、調査時点は平成 26 年 3 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	34
建 設 業	24
小 売 業	43
サービス業	49
合 計	150

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 26 年 1 月～3 月期)の調査において、産業全体の業況D I (前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より $\Delta 1.1$ と若干悪化し $\Delta 31.3$ (前期 $\Delta 30.2$)となった。産業別にみると、建設業が $\Delta 8.3$ (前期 $\Delta 20.8$)と12.5ポイントの改善、小売業でも $\Delta 28.5$ (前期 $\Delta 42.8$)と14.3ポイント改善した一方、製造業は $\Delta 31.3$ (前期 $\Delta 14.7$)と $\Delta 16.6$ ポイント悪化し、サービス業では $\Delta 44.9$ (前期 $\Delta 34.7$)と $\Delta 10.2$ ポイント悪化した。

売上・採算D Iでも共に業況D Iと同じ傾向で、建設業、小売業では前期より改善、製造業、サービス業では前期よりも悪化という結果であった。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額)D Iでは、全体としては前期(H25年10月～12月期)までの改善傾向が今期では悪化傾向となってきた。建設業は4.2(前期 $\Delta 4.2$)で8.4ポイント改善し、小売業でも $\Delta 34.9$ (前期 $\Delta 46.4$)と11.5ポイント改善したが、製造業は $\Delta 17.6$ (前期0.0)で $\Delta 17.6$ ポイント悪化、サービス業では $\Delta 51.1$ (前期 $\Delta 36.7$)で $\Delta 14.4$ ポイント悪化した。

② 採算の状況

採算D Iについても売上額と同じく、建設業は $\Delta 4.2$ (前期 $\Delta 25.0$)で20.8ポイント改善し、小売業は $\Delta 37.2$ (前期 $\Delta 48.9$)で11.7ポイント改善したが、製造業で $\Delta 33.4$ (前期 $\Delta 23.5$)と $\Delta 9.9$ ポイント悪化、サービス業では $\Delta 51.0$ (前期 $\Delta 42.9$)となり $\Delta 8.1$ ポイント悪化した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、製造業では17.6%で横ばい(前期と同じ)、建設業では25.0%で前期よりも比率を $\Delta 8.3$ ポイント減じ、小売業でも11.6%と $\Delta 7.0$ ポイント減じた。またサービス業では14.3%で2.1ポイント増加した。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

3月調査の日銀短観で「中小企業景況DIは製造業、非製造業とも前期から更にプラスとなったが、先行きはいずれも大幅な悪化の見通し」と発表された。宮城の今期売上額（完成工事額）DIは、建設業を除く産業がマイナス値であるものの、前期との比較では建設業、小売業は改善傾向となり回復の兆しを感じられたが、製造業、サービス業では悪化となった。

今期の宮城の全国との売上額DI比較では、全業種で全国を下回った。東北ブロックとの比較でも全業種で東北を下回った。中でもサービス業において全国との差が大きかった。

表一 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・DI）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 8.3	△ 0.3	2.0	△ 9.3	0.0	△ 17.6
建 設 業	6.8	15.2	16.8	22.1	△ 4.2	4.2
小 売 業	△ 35.3	△ 31.3	△ 34.4	△ 35.8	△ 46.4	△ 34.9
サービス業	△ 27.1	△ 28.3	△ 28.4	△ 40.2	△ 36.7	△ 51.1

② 採 算

宮城の今期の採算DIは、全業種でマイナス値であるものの、前期との比較では建設業、小売業では改善傾向であった。今期DIの全国、東北ブロックとの比較では、建設業で宮城が共に上回ったものの、他業種では下回った。

表二 採算の状況（前年同期比・DI）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 20.0	△ 16.6	△ 15.4	△ 15.7	△ 23.5	△ 33.4
建 設 業	△ 12.5	△ 9.0	△ 6.0	△ 4.7	△ 25.0	△ 4.2
小 売 業	△ 37.6	△ 36.1	△ 37.2	△ 35.5	△ 48.9	△ 37.2
サービス業	△ 32.4	△ 33.9	△ 38.4	△ 40.6	△ 42.9	△ 51.0

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上額（完成工事額）来期見通しD I（26年4月～6月期）について、今期状況D Iとの比較でサービス業では4.2ポイントの改善が見通される一方、製造業ではほぼ横ばい（△0.1ポイント悪化）、小売業では△13.9ポイント、建設業では△45.9ポイントの悪化見通しとなった。

採算来期見通しD Iについては、同じく今期状況D Iとの比較で製造業12.2ポイントの改善が見通される一方、建設業については△25.0ポイント、小売業で△7.0ポイント、サービス業で△7.3ポイントの悪化見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、売上額では全国ではすべて悪化見通し、宮城ではサービス業を除き悪化の見通しであった。採算では、全国ではすべて悪化、宮城では製造業を除き悪化の見通しであった。来期見通しD Iでは、製造業の採算D Iを除き、売上・採算共に宮城はすべて全国を下回った。

表－3 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 0.3	△ 13.9	△ 17.6	△ 17.7
建 設 業	15.2	△ 14.8	4.2	△ 41.7
小 売 業	△ 31.3	△ 42.3	△ 34.9	△ 48.8
サービス業	△ 28.3	△ 32.8	△ 51.1	△ 46.9

表－4 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 16.6	△ 22.2	△ 33.4	△ 21.2
建 設 業	△ 9.0	△ 19.5	△ 4.2	△ 29.2
小 売 業	△ 36.1	△ 41.7	△ 37.2	△ 44.2
サービス業	△ 33.9	△ 36.0	△ 51.0	△ 58.3

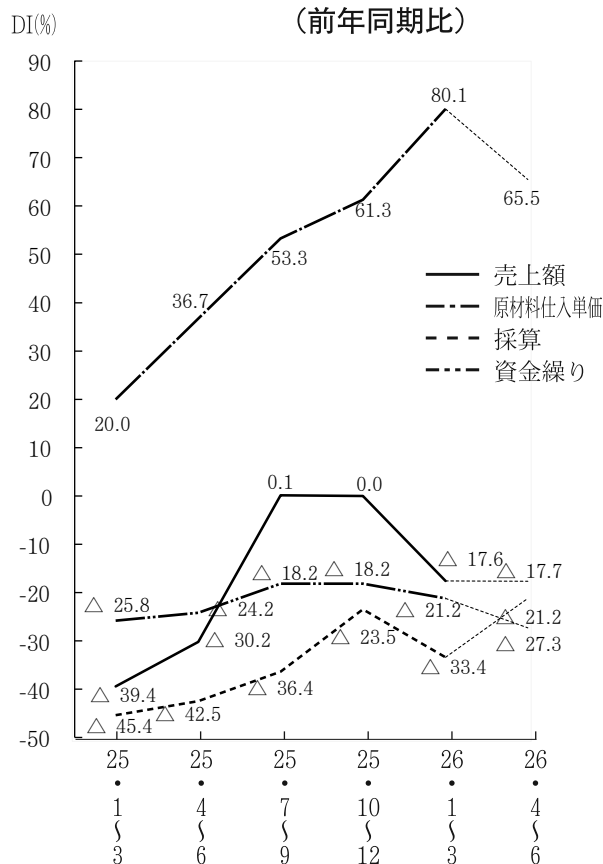
2. 県下産業別の景況

(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△17.6（前期 0.0）となり△17.6ポイント悪化し、採算D Iは今期△33.4（前期△23.5）で△9.9ポイントの悪化、資金繰りD Iも今期△21.2（前期△18.2）で△3.0ポイント悪化であった。原材料仕入単価は 80.1（前期 61.3）と18.8ポイント上昇、来期はやや改善の見通しとなっているものの、依然原材料の高騰状況が続いている。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



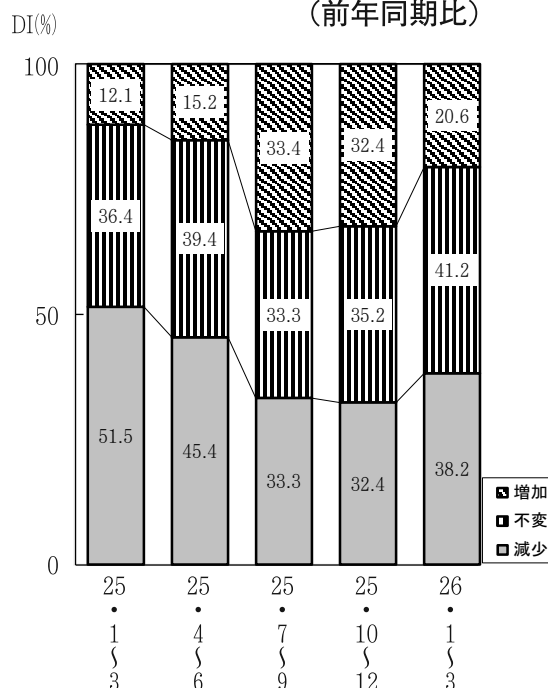
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工) 額

「増加」と回答した企業は、全体の20.6%（前期32.4%）と△11.8ポイント減少し、「減少」と回答した企業は38.2%（前期32.4%）と5.8ポイント増加した。

結果として売上（加工）額D Iは△17.6（前期0.0）となり前期比△17.6減と悪化した。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

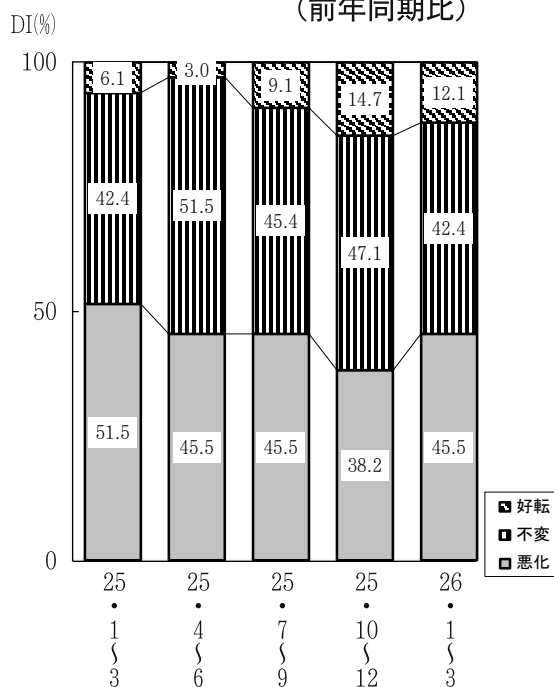


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 12.1% (前期 14.7%) で△2.6 ポイント減少し、「悪化」と回答した企業は 45.5% (前期 38.2%) で 7.3 ポイント増加した。

その結果、採算 D I は△33.4 (前期△23.5) となり前期比△9.9 ポイント悪化した。

図 1 - 3 採算の状況
(前年同期比)



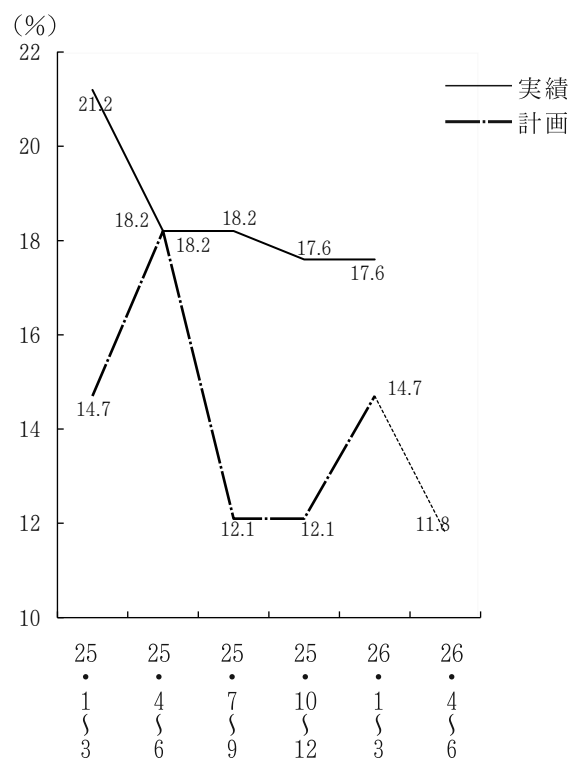
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は、全体の 17.6% (前期 17.6%) で横ばいであった。

その設備内容は生産設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、福利厚生施設であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の 11.8% で、その設備内容は工場建物、生産設備、車両・運搬具、OA機器となっている。

図 1 - 4 設備投資の状況

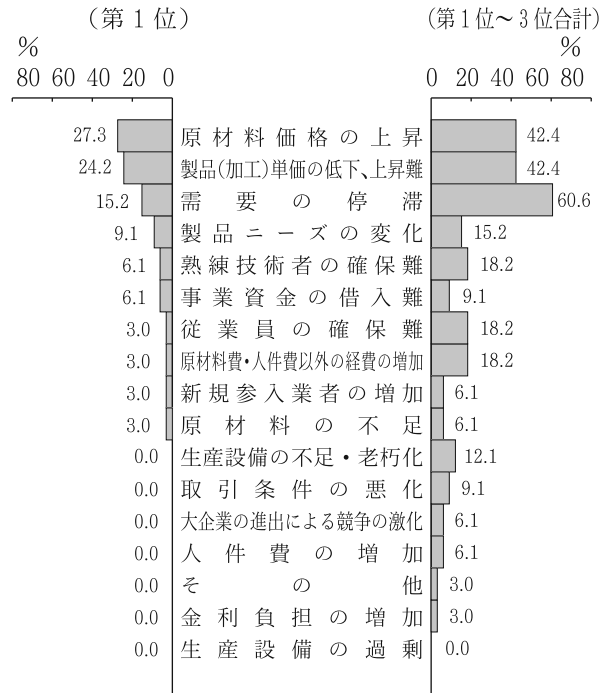


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「原材料価格の上昇」が27.3%で、次いで「製品(加工)単価の低下、上昇難」が24.2%、「需要の停滞」が15.2%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、最上位が「需要の停滞」で60.6%(複数回答計、以下同じ)、次いで「原材料価格の上昇」と「製品(加工)単価の低下、上昇難」が42.4%と同率で続いた。

図1-5 経営上の問題点



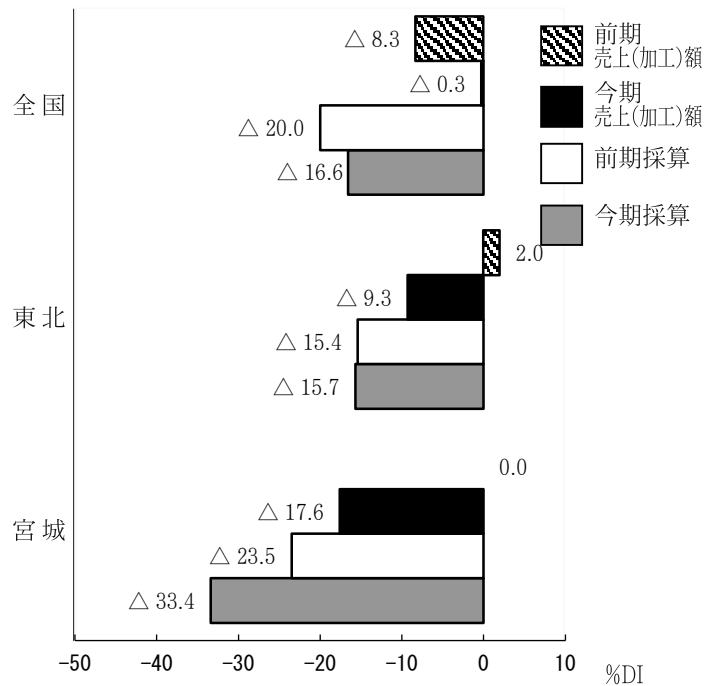
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上(加工)額DIについては、前期と比べて全国では改善傾向にあるが、東北、宮城は共に悪化傾向、特に宮城の悪化傾向が顕著である。

採算については、前期と比べて全国ではやや改善傾向にあるが、東北で横ばい、宮城では悪化傾向となっている。

本県回答事業者からは「円安の影響により原材料価格の上昇、4月からの消費税増税が経費増加につながることを懸念」(成形加工業)する一方、「確実に震災後に業績が落ちついた感があるが、必ずしも復興関連の仕事ばかりでない所に、明るい兆しを感じられる。」(電気工事業)との意見もあった。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較(前年同期比)



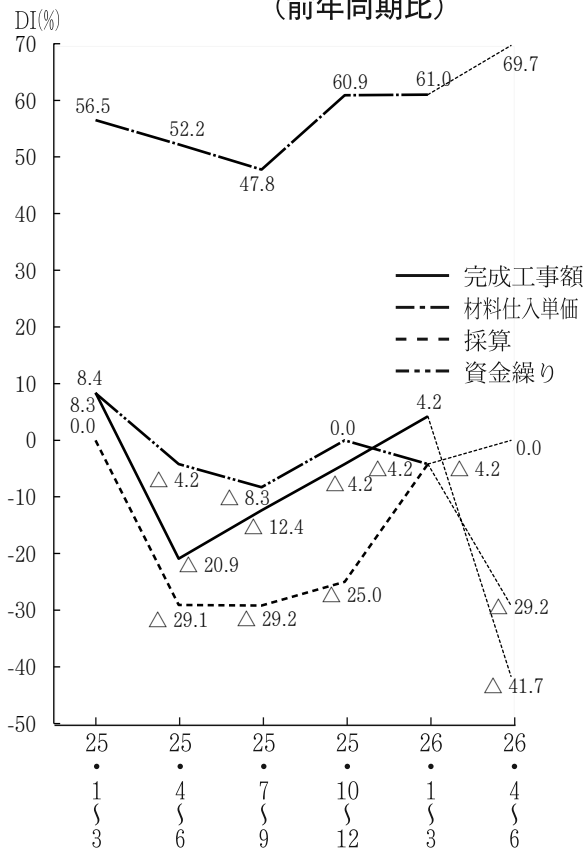
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは 4.2（前期△4.2）と 8.4 ポイント改善し、採算D Iも△4.2（前期△25.0）で 20.8 ポイント改善、資金繰りD Iは△4.2（前期 0.0）と△4.2 ポイント悪化した。

懸念されている材料仕入単価D Iは 61.0（前期 60.9）でほぼ横ばい（0.1 ポイント上昇）であった。

図 2 - 1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



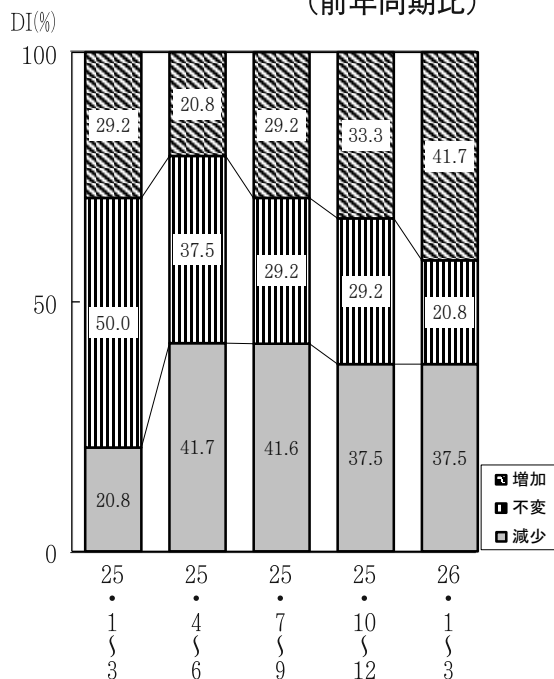
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の 41.7%（前期 33.3%）で 8.4 ポイント増加し、「減少」と回答した企業は 37.5%（前期 37.5%）と横ばいであった。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは 4.2（前期△4.2）と 8.4 ポイント改善した。

図 2 - 2 完成工事額の状況
(前年同期比)

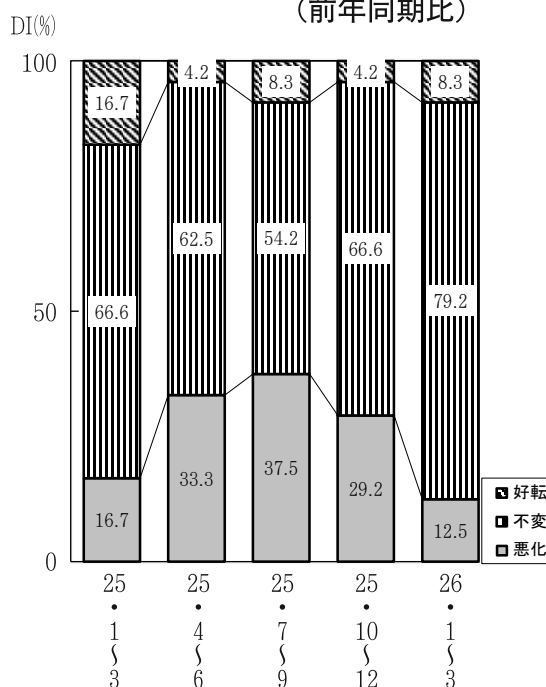


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の8.3（前期4.2%）であり4.1ポイント増加し、「悪化」と回答した企業は全体の12.5%（前期29.2%）で△16.7ポイント減少した。

その結果、採算D Iは△4.2（前期△25.0）と20.8ポイント改善した。

図2-3 採算の状況
(前年同期比)



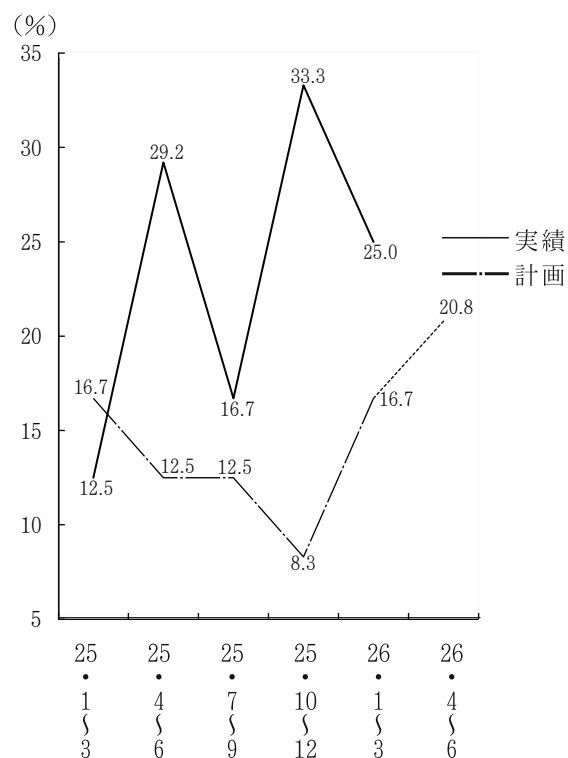
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、全体の25.0%（前期33.3%）で△8.3ポイント減少した。

その設備内容は土地、建設機械、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の20.8%で、その設備内容は土地、建物、建設機械、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、福利厚生施設、その他となっている。

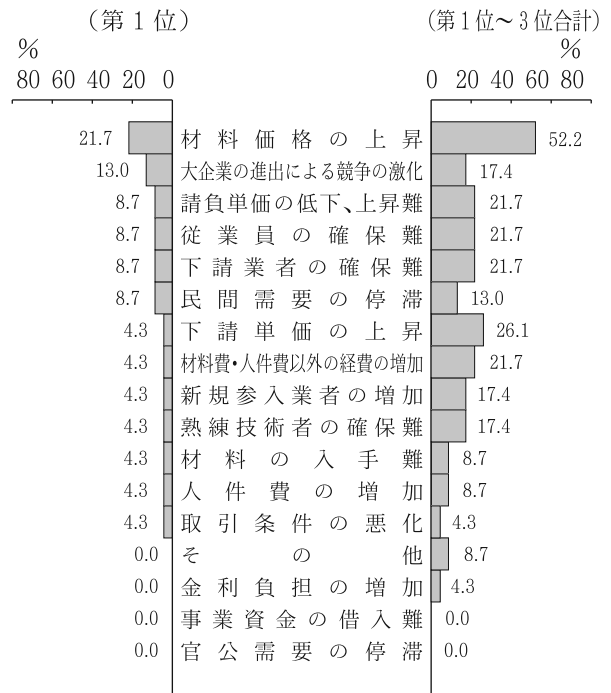
図2-4 設備投資の状況



(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「材料価格の上昇」(21.7%)で、次いで「大企業の進出による競争の激化」(13.0%)で、「請負単価の低下、上昇難」、「従業員の確保難」、「下請業者の確保難」、「民間需要の停滞」が同率(8.7%)で続いた。重要度第1位から第3位合計でも、「材料価格の上昇」(52.2%(複数回答計、以下同じ))が最上位で、次いで「下請単価の上昇」(26.1%)であった。

図2-5 経営上の問題点

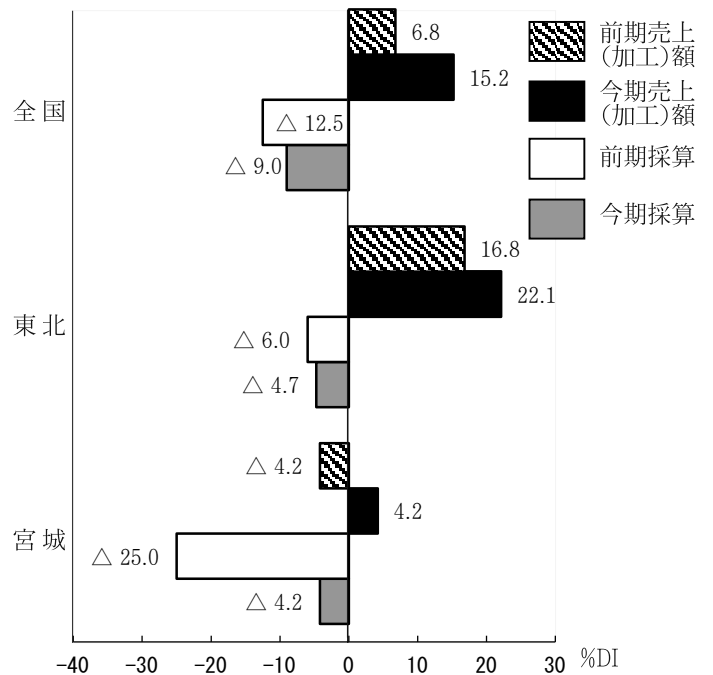


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今回調査において売上額DIでは、宮城は全国・東北を下回るものの、採算面では宮城は全国・東北に比べ前期からの改善度が大きく上回り、今期採算DIでも同じく全国・東北を上回った。

本県回答事業所からは「消費税の増税による景気落ち込み懸念」、「原材料価格の上昇・調達困難」などの先行き不安のコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較(前年同期比)



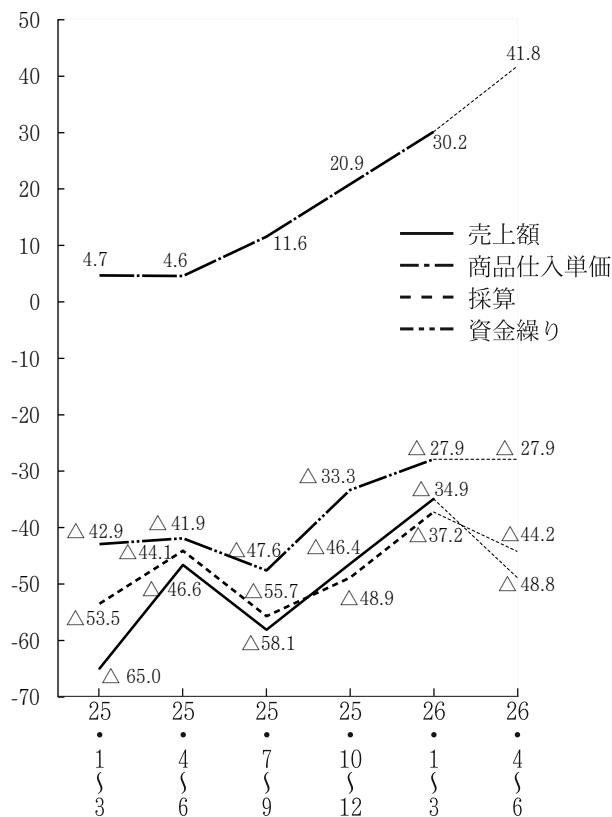
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは△34.9（前期△46.4）と11.5ポイント改善し、採算D Iも△37.2（前期△48.9）で11.7ポイント改善、資金繰りD Iも△27.9（前期△33.3）で5.4ポイントといずれも前期に比べ改善した。

商品仕入単価D Iは30.2（前期20.9）となり9.3ポイント上昇した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



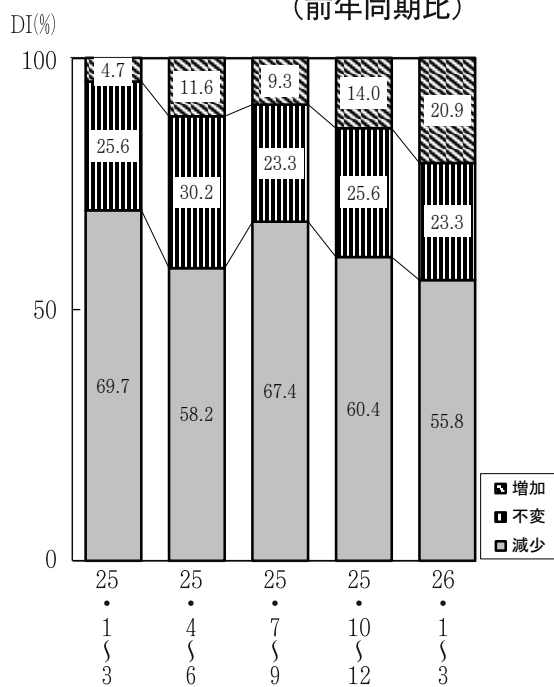
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は全体の20.9%（前期14.0%）と6.9ポイント増加し、「減少」の回答は全体の55.8%（前期60.4%）と△4.6ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは△34.9（前期△46.4）と前期比11.5ポイント改善した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

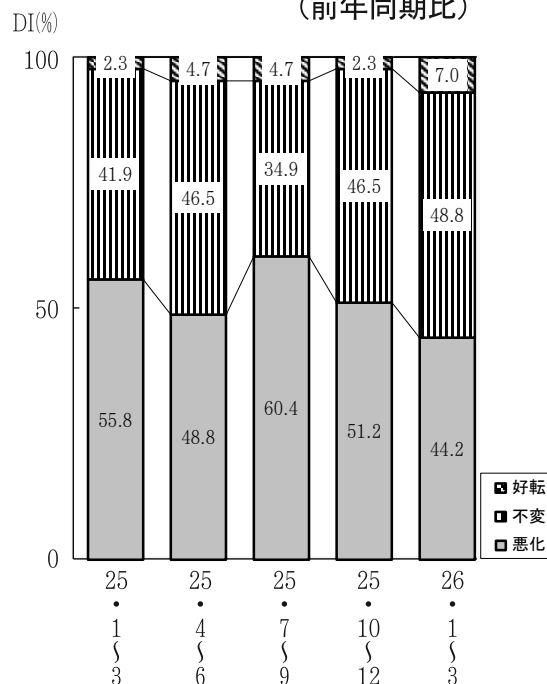


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の7.0%(前期2.3%)と4.7ポイント増加し、「悪化」の回答は全体の44.2%(前期51.2%)で△7.0ポイント減少した。

その結果、採算DIは、△37.2(前期△48.9)となり、前期比11.7ポイント改善した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



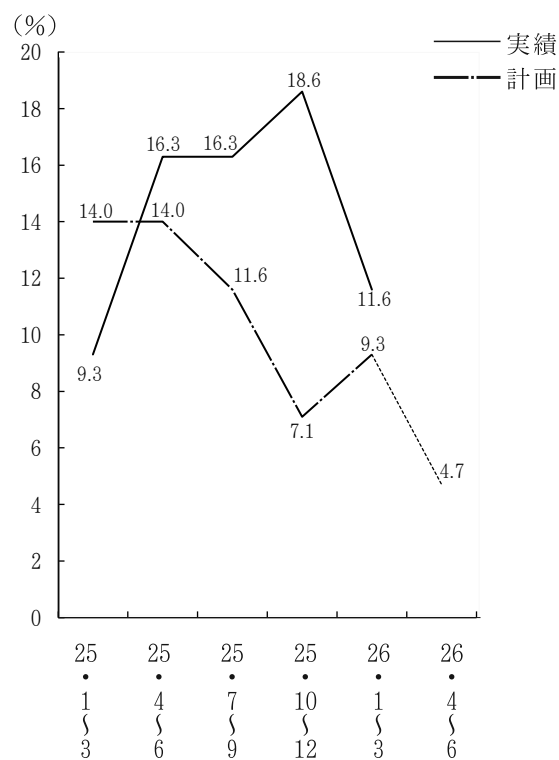
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は、全体の11.6%(前期18.6%)で、△7.0ポイント減少した。

その設備内容は店舗、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、その他であった。

来期に設備計画している企業は4.7%で、その内容は販売設備、車両・運搬具を想定している。

図3-4 設備投資の状況

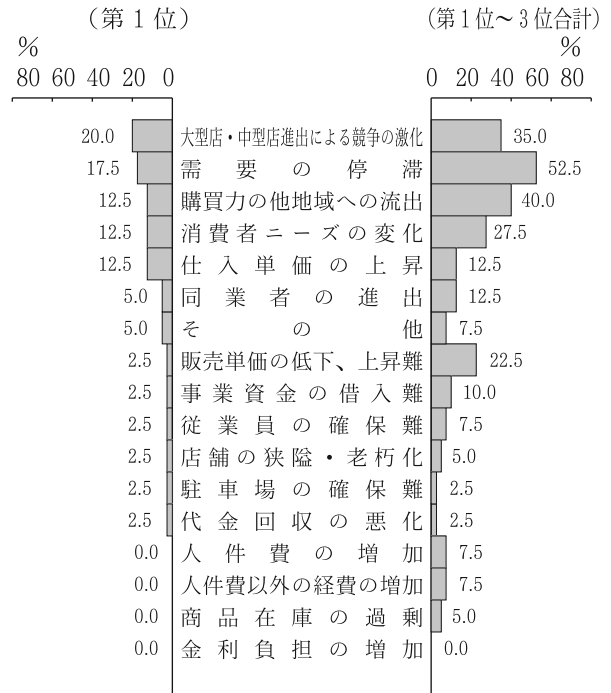


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(20.0%)で、次いで「需要の停滞」(17.5%)で、更に「購買力の他地域への流出」、「消費者ニーズの変化」、「仕入単価の上昇」が同率(12.5%)で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(52.5%(複数回答合計、以下同じ))が最上位で、以下「購買力の他地域への流出」(40.0%)「大型店・中型店の進出による競争の激化」(35.0%)、「消費者ニーズの変化」(27.5%)が続いた。

図3-5 経営上の問題点

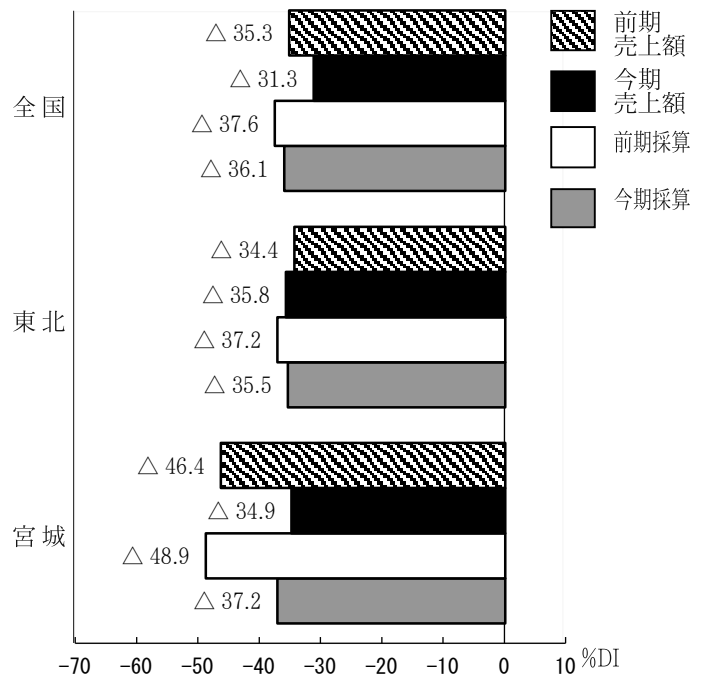


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

小売業の経営環境は、前期比較では全国、東北に比べて改善度が大きく、今期の前年同期比較において売上では東北を抜き、採算においてもほぼ全国並みD Iになった。

本県回答事業所から「消費税アップによる今後の需要減への懸念」(多数)、「仕入れや原材料価格の上昇懸念」(菓子店他)などの先行き不安のほか、「福島原発の風評被害の問題が収束に向かうかと思われたが、逆に拡大に転じてしまっている。」(自然食品販売)とのコメントも寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)

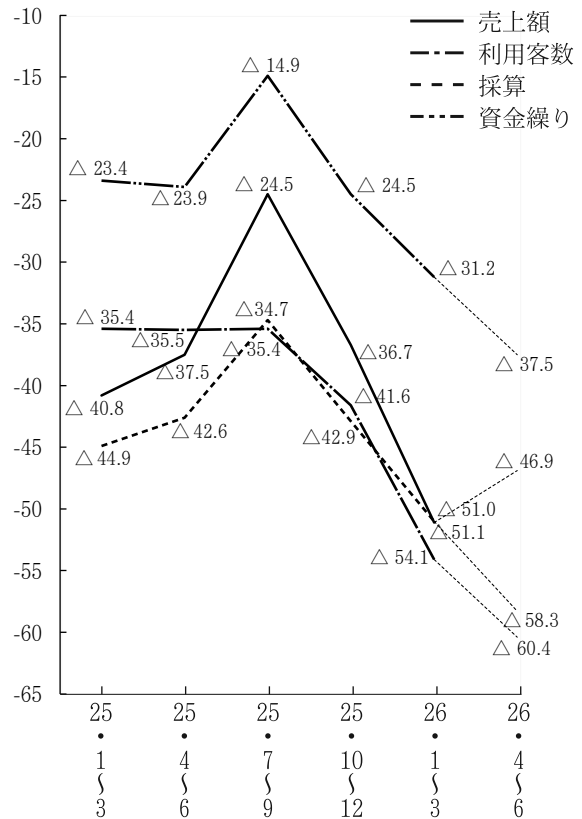


(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは△51.1（前期△36.7）で△14.4ポイント悪化し、採算D Iも△51.0（前期△42.9）と△8.1ポイント悪化し、利用客数D Iも△54.1（前期△41.6）で△12.5ポイント悪化し、資金繰りD Iも△31.2（前期△24.5）と△6.7ポイント悪化した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



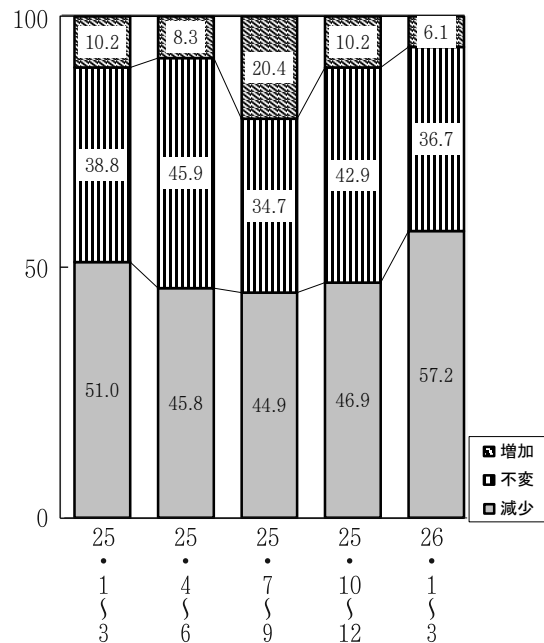
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は全体の6.1%（前期10.2%）で、△4.1ポイント減少した。「減少」の回答は57.2%（前期46.9%）で10.3ポイント増加した。

その結果、売上（収入）額D Iは△51.1%（前期△36.7%）で前期比△14.4ポイント悪化した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

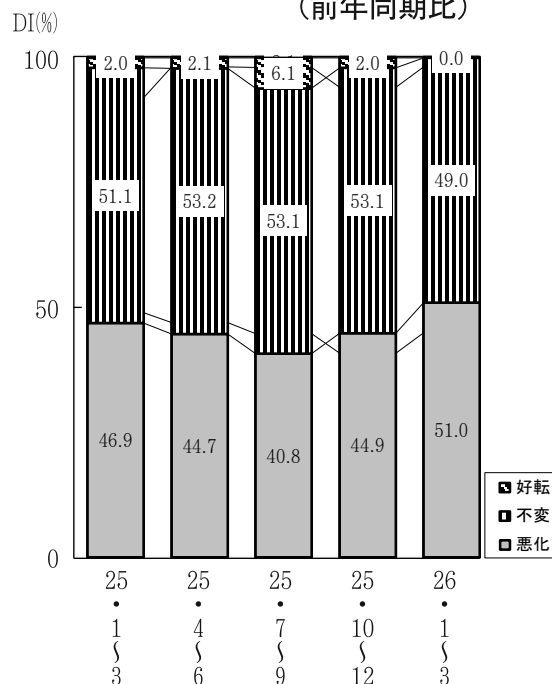


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 0.0% (前期 2.0%) で前期比△2.0 ポイント減少した。「悪化」と回答した企業は 51.0% (前期 44.9%) と 6.1 ポイント増加した。

その結果、採算 D I は△ 51.0 (前期△ 42.9) となり、前期比△8.1 ポイント悪化した。

図 4 - 3 採算の状況
(前年同期比)



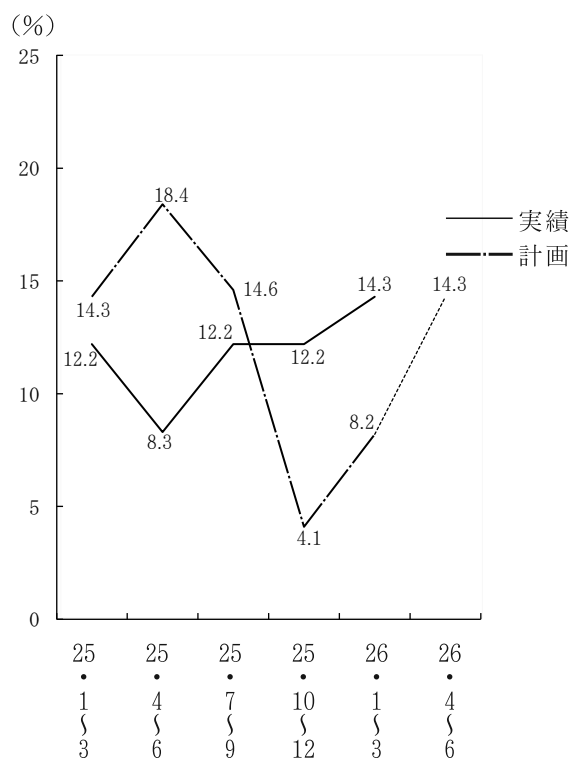
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施(実績)した企業は、全体の 14.3% (前期 12.2%) で 2.1%増加した。

その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は、14.3%であり、その内容は、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、その他となっている。

図 4 - 4 設備投資の状況

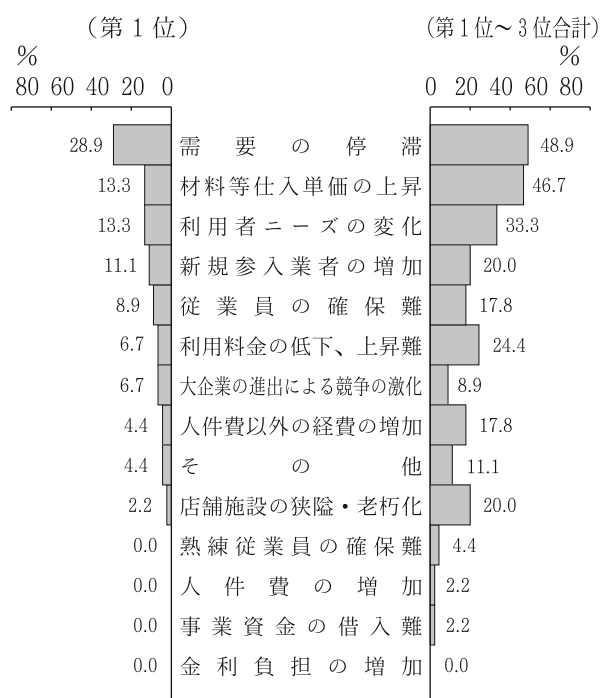


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(28.9%)で、「材料等仕入単価の上昇」、「利用者ニーズの変化」が同率(13.3%)で続き、「新規参入業者の増加」(11.1%)と続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(48.9%(複数回答合計、以下同じ))が最上位で、「材料等仕入単価の上昇」(46.7%)、「利用者ニーズの変化」(33.3%)、次いで「利用料金の低下、上昇難」(24.4%)と続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

サービス業は、全国、東北ブロックと比較し宮城では前回調査同様厳しい結果であった。前年同期比較及び前期からの悪化度において、売上額・採算ともに全国・東北を下回った。

本県回答事業所からは「低価格を売りにしている店舗が出店」(美容室)、「燃料(軽油)の高騰・高止まり」(運送業)等のコメントが寄せられた。また「震災復興関連の一服感と、海側の新規宿泊施設の開業等による影響が顕著」(内陸旅館業)とのコメントもあった。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

